

《2024年1月（通算327回）限定サロン報告》

第8回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの 総括と慰労

【日時】2024年1月30日（火）19:30～21:00 ※終了後はオンライン懇親会（23:00まで）

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】第8回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの総括と慰労

【参加者（サロンファミリー 7名）】 ★はNPO会員

磯和明、★小池靖、橘和徳、★茅野英一、★土谷享、★中塚義実、★本多克己

【参加者（関係者 2名）】

菅原基信（長野県フットサル連盟）、ガスパール・クエンツ（長野県在住の映画監督）

【懇親会からの参加者】

井上俊彦

【報告書作成】土谷享、中塚義実ほか

【目次】

開催概要：1月11日配信メールより

第1ピリオド：大会全体の総括

1. スライドで大会全体の振り返り
2. 情報交換
 - 1) 長野FF（主管連盟）とサロン2002運営スタッフの視点
 - 2) 帯同審判について
 - 3) 動画配信について
 - 4) 信州千曲観光局より

第2ピリオド：大会の記録映像・記録映画について

1. 理事長から「大会の記録映像・記録映画」について
2. ディスカッション

<参考資料：本件で応募したい「日本財団助成金」について（土谷氏提供）>

開催概要 (1月11日にサロンファミリーに配信したメール)

2024.1.11. (中塚義実)

サロン2002ファミリー (含NPO会員) 各位

先ほどのメールに記した通り、1月19日に予定していた公開サロンは諸事情により延期となりました。

代わりに、第8回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップの総括と慰労の会を1月30日 (火) 19:30よりオンラインで開きます。

《2024年1月 限定サロン (通算327回) 案内》

【日時】2024年1月30日 (火) 19:30~21:00 ⇒ 終了後はオンライン懇親会 (情報交換会)

【会場】オンライン (Zoom)

【テーマ】第8回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップの総括と慰労

【概要 (理事長より)】

第3回対以降、長野県千曲市の「ことぶきアリーナ千曲」で開催されるこの大会は、NPOサロン2002がtoto助成を受けて主催するビッグイベントです。今回から3日間開催となり、4年ぶりに制限なしで観客を受け入れ、全国から16チームの選手とスタッフ、応援の方々が3日間 (最長5日間) を千曲市で過ごしました。

二つのイベントを新たに企画しました。初日の「開会セレモニー (市長挨拶と出場チーム自己紹介)」と2日目の「千曲市の文化紹介 (冠着太鼓)」です。イベント①②で大会全体が引き締まり、会場全体が盛り上がりました。コロナ禍以降に導入した動画配信は、初めて専門業者「グリーンカード」と連携を図り、心のこもった映像を提供することができました。信濃毎日新聞やちくま未来新聞、ケーブルネット千曲など、ローカルメディアで取り上げてもらえたのも大きな成果です。SNSでの情報発信も効果的でした。競技会そのものは長野県フットサル連盟が主管で滞りなく進められました。関わってくださった方々には感謝しかありません。U-18年代のトップレベルの競技会は、地域社会から世界につながる機会です。

記憶が鮮明なうちに大会を振り返り、慰労し、次につなげる機会を持ちたいと思います。

今回は90分限定で、そのまま「オンライン飲み会」を楽しみます。久しぶりですね。

90分の構成はおおむね次のとおりです。

1) 第1ピリオド (前半45分間) = 大会全体の総括

3日間となった大会運営、競技面、イベント①②と千曲市の関わり、動画配信について

2) 第2ピリオド (後半45分間) = 大会の記録映像・記録映画について

競技会をやってチャンピオンを決めておしまいではなく、何らかのメッセージを残したい。

文字で伝えるだけでなく、映像で残し、より多くの人に伝えたい。

では何を、どのような観点で、どのように伝えるのか…

第10回大会で「10年の記録」をまとめる予定ですが、2025年1月の次回大会でショートムービーを撮ることも検討中。今大会でも、イベント①②のショートムービーはあります。これをどう生かしていくか…

こんなことを自由に語り合い、21時からオンライン懇親会 (情報交換会) になだれ込みたいですね。

【参加申し込み】参加希望者はSlack、ML、または中塚へ直接メールでお申し込みください。

【報告書】理事長がイベント報告としてまとめます (以下略)。

第1ピリオド：大会全体の総括

1. スライドで大会全体の振り返り

はじめに理事長から、12月27日の代表者会議資料での「ご挨拶」が紹介された。8回目となる本大会の意図とともに、「千曲市と密接に連携しながらこの大会を育てていく」姿勢が述べられた。

ご挨拶 – 初の3日間開催へ向けて

今年も1月最初の週末に、長野県千曲市で、U-18フットサルリーグチャンピオンズカップがtotoの助成を受けて開かれます。8回目となる今大会は、開催期間を2日から3日に延長し、全チームが3日間ゲームを楽しみ、千曲市で過ごせるようにしました。さらに二つのイベントー開会セレモニーと千曲市の文化紹介ーを通して、互いの交流を深め、千曲市をより理解してもらうことを模索しています。

2022年11月に千曲市で開かれたシンポジウム「温泉街をスポーツで盛り上げよう！」の前後から、千曲市と密接に連携しながらこの大会を育てていく方向性が定まりました。第3回大会からことぶきアリーナ千曲が会場となりましたが、第4回大会は台風被害の影響が心配される中での開催でした。第5回から第7回まではコロナ禍での大会となり、特に第5回大会は緊急事態宣言下で、開催決定はギリギリの決断でした。＜大会に携わるすべての人が「withコロナ」の新たな様式を理解し実践する＞ことを求め、「どうすればできるか」「何ができるか」をさびりながらの3年間でした。

これらの苦しい時期をともに乗り越えてきたからこそ、3日間開催となったこの大会、そしてU-18フットサルそのものを、千曲市とともに盛り上げていこうと、改めて感じているところです。

この大会の主催は「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げるNPO法人サロン2002です。全国のU-18リーグ状況について毎年調査し、それをもとに出場枠を決定しています。

今年度回答があったのは、北海道、宮城、埼玉、東京、神奈川、静岡、愛知、富山、長野、京都、大阪、兵庫、福岡、熊本、鹿児島、そして関東の16リーグでした。このうち宮城県が諸事情により代表チームを出せないと連絡があり、リーグ戦参加チーム数の多い神奈川が一枠追加となりました。また、都道府県ではない「関東」という上位リーグにも一枠設けました。主催団体としてはこのような動きは大歓迎です。各地域の主体的かつ積極的な動きに対して、柔軟かつ公平・公正に対応してまいります。ただしリーグ戦は、この大会に出場するための予選ではありません。“生活”に根差してしっかり“遊ぶ”、“組織”としてのリーグの整備を求めます。

初参加は鹿児島県です。ほかの府県でもリーグ戦が整備されつつある情報を耳にします。

一方で、昨年度までリーグ戦が実施されていた、または立ち上げの機運がみられた福島、福井、和歌山、徳島の名前がありません。各地域には固有の事情があるでしょう。と同時に、会場・審判の確保、スケジュール問題など、全国共通の、普遍的で大きな課題もあります。

U-18フットサルの方向性について検討プロジェクトが立ち上がり、議論が進められているようです。1月7日の懇親会でも、ざっばらな意見交換ができるとよいと考えます。

「U-18年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」を意図して始められたこの大会は、次の段階に入ろうとしています。大会に携わるすべての人が、U-18フットサルを思う存分楽しみ、千曲市を堪能していただくことを願います。そして大会後も、それぞれの地元で、健康・安全で“ゆたかなくらし”が展開されることを、心より願います。

令和5年12月27日
特定非営利活動法人サロン2002理事長 中塚 義実

第8回大会は2024年1月6～8日、長野県千曲市の「ことぶきアリーナ千曲」で開催された。ほとんどのチームは上山田温泉で宿泊し、3日間の全国大会に臨むとともに、初日の開会セレモニー、2日目の「千曲市の文化紹介」などを通して互いを知り、開催地を知る機会となった。2日目の夜には情報交換会が開催され、全国各地のU-18フットサルの現状と課題が共有された。

(2月27日の「公開サロン」で改めて取り上げるので、詳細は同報告書をご参照いただきたい)

2. 情報交換 (要点のみ)

1) 長野 FF (主管連盟) とサロン 2002 運営スタッフの視点

◆菅原基信 (長野県フットサル連盟)

・大会が3日間となり、1次ラウンドでどのチームも3試合できるようになった。選手・チームが積極的にチャレンジする姿勢がみられ、育成年代においてよい傾向であると考えます。

・2次ラウンドのトーナメント戦とは別に、最終日に交流戦ができたのもよかった。試合数が多いのは選手・チームにとってよい経験になったと思う。

- ・一方、試合数が多くなった分、審判の確保が大変だった。長野県の審判を手配しているが、今回は新潟から3名、東京から1名来てもらった。他県からの応援も求めたい。審判には地域ごとの個性があるので、県や地域をまたいで審判が交流できる機会となるとよい。
- ・審判が少なかったので、長野県 FF の菅原と下条は FDS (Futsal Data System の略) にかかりきりにならざるを得なかった。本来であればニュートラルな立場で全体をみながら大会運営に目配せするところだが、それがかなわなかった。
- ・各試合で場内アナウンスをしたかった。これも人手不足でできなかった。
- ・次年度は9月下旬から10月初旬には準備をスタートしたい

◆橋和徳 (サロン 2002 ファミリー/富山県フットサル連盟)

- ・チームを連れて来たかったが、富山県代表になれなかったので運営・審判として携わった。1次ラウンドでは審判を、決勝では実況を担当した。映像撮りにもかかわった。
- ・帯同審判について、今回はどのリーグも予算化していなかったが、あらかじめ予算化しておいてもらえれば、他県にも呼び掛けられるのではないかと。依頼するとすれば、何人必要か？ また、派遣審判の資格について、長野県では4級から3級へのレベルアップを目指す審判も来ていた。「2級でないといけない」となるとハードルは高くなるが、審判の研修の場ととらえることも重要。

2) 帯同審判について

菅原：長野オープンで導入している「帯同審判員」を、この大会でも採用してはどうか。大会参加チームは日常的にリーグ戦をやっているので、事前にアナウンスしておけば対応できるはず。ご検討いただきたい。審判資格については、4級であっても経験と実力があれば推薦を受け付けたい。

本多：審判手当は規定に沿って主催者から出している。旅費を各リーグから出してもらえれば、運営的にもマイナスにはならない。

菅原：長野オープンはそのようにやっている。各リーグに対して派遣を投げ掛ければ、各チームから1人ずつの派遣も可能ではないか。

本多：各チーム (各リーグ) からの帯同は「3級以上が望ましい」として投げかけてみたい。

中塚：この大会を通して、審判員の交流を含めた審判育成も視野に入れて取り組みたい。

3) 動画配信について

中塚：YouTube で全試合、動画配信を行った。株式会社グリーンカードと NPO サロン 2002 で1面ずつ担当したが、グリーンカードの日置さんが技術的なことを含めフル回転で動いてくださった。サロン 2002 からは、上田市在住の井上さん、千葉から皆川さん、富山から橋さん (審判兼) に加え、国土館

大学3年の松田築くん、金川駿くん、杉本隼人くんが業務にあたった。今回も「よいチーム」であった。決勝の解説は多摩大学の福住有紘さん、実況は橘さん。多くの視聴者を集めた。

Wifi問題は相変わらずだが、ことぶきアリーナ千曲をホームアリーナとする「ボアルース長野」が光ケーブルを敷設している。契約上の問題をクリアすれば、利用の可能性はある。今後要検討。

4) 信州千曲観光局より

中塚：参加予定だった一般社団法人信州千曲観光局の近藤弘之氏より、「気づいたことだけ書きました」とコメントをいただいた。共有しておきたい。

- ・宿が必要か必要でないか、決定した時点で、観光局に必ず連絡を頂きたい。送迎等難しい場合があります。
- ・スポンサー等（ルートインホテルズ）で、宿がある場合も連絡を頂きたい。
- ・イベントにつきましては、局だけでは限られてしまいます。

第2ピリオド：大会の記録映像・記録映画について

1. 理事長から「大会の記録映像・記録映画」について

2023年10月17日のNPO法人サロン2002理事会で、U-18FLCCの「記録映像（映画）」作成についての理事長私見が紹介された。

「記録映画」とするかどうかはともかく、第10回大会の際には「何かを残そう」という話にはなりました。今年度が第8回大会なので、次々回となります。

個人的には、過去10回の大会のあゆみを、千曲市目線で映像化できるとよいと思います。

- 1) 大会のはじまり
- 2) 「ことぶきアリーナ」完成、U-18FLCCを千曲市で開催(第3回=2019年1月から)
- 3) 台風で千曲川氾濫(2020年1月)
- 4) コロナ禍でも続く
- 5) 温泉街をスポーツで盛り上げよう！(2022年11月13日のシンポジウムが“決起集会”)
- 6) 千曲市とともに盛り上げる U-18FLCC⇒そして第10回大会...

理事会では前向きな意見が多く、翌10月18日に土谷氏が、旧知のガスパール氏とこの件について打ち合わせをした。

(下のスライド参照)

これについて理事長から、この企画の背景として「2022年度の二つのシンポジウム＜温泉街をスポーツで盛り上げよう！＞＜ちゃんと遊ぼう！＞で語られたことを、NPOサロン2002のメッセージとして発信していきたい」というねらいがあること、および「スケジュールは土谷さんの想定より1年遅く、2026年度（2027年1

10月18日 ガスパール&土谷MTGメモ

【企画案】

試合の記録映像という内容ではなく、サロン2002としてのU18フットサルリーグチャンピオンズカップの理念やミッションをメインとした理念ビデオみたいな内容が良いのでは。

【スケジュール】

2023年度『リサーチの年』もしかしたら、テスト的な撮影

2024年度『取材の年』月例会でガスパールのプレゼン、ディスカッション／撮影

2025年度『編集と公開の年』U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ10周年として公開

【素材】

映像はプロモーション的なもので、下記の素材で構成。

- 1) 始まった経緯や未来につなげたい理念についてのインタビュー（中塚さんや本多さん、常連クラブの監督や選手など）
- 2) インタビューに過去の記録写真などを挿入
- 3) 2024年度大会を撮影→できれば3人体制で撮影したい

月)の第10回大会を含めた10周年の記録としたいということが述べられた。

「誰に対して、何を発信するか」については「まだもやもやしている。自由に意見交換したい」と問題提起された。

2. ディスカッション

ガスパール：10年前から長野市に在住。2日目の午後から半日観戦した。サロン2002の意図を理解した上で作るのが望ましい。

二つの方向性で考えられる。プロモーションビデオかドキュメンタリーか。

プロモーションビデオの場合、3分以内のものを制作して大会で披露することができるだろう。あまり長いものだと大会で見てもらうにはなじまない。しかしこの尺だと深いところの取材はできない。

ドキュメンタリーでも15分以内がよい。深いインタビューは可能。一つのチームを追って、練習や宿での様子、移動を取材することも考えられる。

2択か、または両方つくってみるのもありだろう。予算次第である。

本多：U-18年代のフットサルの頂点を定めるしっかりとした大会にしたい。と同時に、日常的にフットサルが楽しめる環境を、この大会をきっかけにってもらいたいという意図がある。動画を作っていくとなると、理念をどうやって描いていくのかをガスパールさんとも考えていきたい。スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を表現したい。

お金の話でいうと、いま大会はtotoの助成金を約100万円受けてやっているが、次年度は動画撮影に使えるよう、30万円上乗せして申請している。10周年に向けては、別の助成金を受けることも考えていきたい。

橘：出場選手に自分たちの撮影してもらい、その映像を集めるのはどうか。2日目の懇親会で聞いた話だが、北海道のチームは練習試合を日帰りでするために往復8時間かけている。それが彼らの日常となっている。全国から集まる16チームには、それぞれの環境に違いがあり、比較してみると全国の様子がわかることが面白いし、大切な気づきを得られるだろう。

中塚：高校生はスマホで簡単に動画を撮影し編集している。今大会前も、各チームに動画をとってもらってそれを集めようかという話はあった。十分可能性はあると思う。開会セレモニーや千曲市の文化紹介(冠着太鼓)の映像は今回も撮っている。

本多：今回の大会も、試合映像だけでなく、イベントの映像も国士館の学生がとってくれている。ただしいまのところ編集はされていない。

ガスパール：実際の試合を撮影するのは技術的にとても難しい。テクニックがいる。選手が撮影するとなると、躍動感のある表現を映像にするためのワークショップをすることもできる。

土谷：次年度は、千曲の会場で選手やチームを対象に撮影のワークショップを開くとよいのではないかと。プロモーションビデオ撮影のためのワークショップに、高校生たちに参加してもらおう。ガスパールの指導のもとで、事前練習しているところを撮影すれば、フットサルの練習だけでなく撮影の練習にもなる。

小池：TikTokなどの若者文化にサロンの理念を寄せていくのはよいと思う。

茅野：各大会の映像アーカイブを撮り溜めていくのは重要。お金をかけてでもアーカイブをつくっていくことは、大会を運営することと同じぐらい力を入れて良いものであると、話を聞いていて思った。試合の配信は配信として続けながら、それ以外のもの、いまの18歳が何を感じ、考えているのか、これを映像化することは大会を開くのに同じぐらい重要である。将来、その意味が出てくる。参加者が自分たちの映像を残していくことも重要。頭や胸にカメラをつけてプレイするようなことも、高校生は喜んでいるのではないかと。

ガスパール：頭や耳に装着して撮影する機材がある。アクションカメラという。エクストリームスポーツでよく使う。手を使わずに常に撮れるカメラなどいろんな形式がある。私も把握できていないくらい種類がある。

小池：少年サッカーの指導をしているが、上手な選手がどこをみてプレイしているのかは重要なコンテンツになるのでは。サロンの理念とは少し離れるが、新たな領域を切り開くかも。

橘：プレイ中の選手自らの撮影行為は競技規則で禁止されているが、練習試合ならできるかも。

菅原：ことぶきアリーナでは会場内で映像を流す設備はないが、弁当を配布していたロビーあたりなら、モニターやスクリーンを持ってきて映像を流すことができる。やってみたい。各チームの紹介ができるとおもしろい。

中塚：Bリーグの試合時には屋外にテントを建ててきのこ汁を振る舞ったりしているとお聞きした。この大会でも同様に、きのこ汁を味わいながら、チーム紹介の映像を楽しむことができるとよい。

菅原：きのこ汁なども、もう少し早く動き出せば次の大会ではできるかも。あとは千曲市を紹介するブースや、土産販売もできるかも。地元の観光スポットを紹介するブースがあると良い。こういったものを準備していきたい。

中塚：夢のある前向きな話がたくさん出ました。ここで出た話を次につなげて、10周年に向かっていきましょう。2月27日の公開サロンでもこの話を紹介したと思います。このあとは懇親会で。

<参考資料：本件で応募したい「日本財団助成金」について（土谷氏提供）>

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2023/09/gra_app_01.pdf

2号交付金

現在の日本は人口減少、少子高齢化、子どもの虐待や不登校、貧困、自殺、災害、孤立などたくさんの課題を抱えています。わたしたちは、子ども、障害者、高齢者などすべての人が社会から隔絶することなく、できる限り地域に根差して生活し、自らの未来を決定できる、多様性のあるインクルーシブな社会を目指します。さまざまな状況に対応しながら、助成先とのパートナーシップを通じて、個性豊かで活力に満ちた、みんながみんなを支える社会の実現に向け、次のテーマを柱に支援します。

- (1)子ども
- (2)障がい者
- (3)高齢者
- (4) 社会 ⇒ このカテゴリーの「エ」を申請してはどうか

エ. スポーツやアスリートが持つ影響力・多くの人を巻き込む力を活用して、社会課題に関する一般生活者の意識・行動変容を促し、社会課題の周知や課題解決を促進する取り組み